

特 ● 集

合併10周年！ 戸田地域の活性化に向けて

平成17年に沼津市と戸田村が合併し今年で10年が経ちました。市では「沼津と戸田の2つの個性を融合させ、人が行き交うまち」を目指して、様々な施策を展開してきました。

今回の特集は合併10周年を記念して、これまでの取り組みと戸田地域の活性化へのシンボルとしてオープンした「くるら戸田」について、地域の皆さんへのインタビューと共に紹介します。

◎政策企画課
0555・934・4798



大人気の源泉掛け流し日帰り温泉



戸田の魅力を発信「観光情報コーナー」



気軽に浸かって一休みできる「足湯」

「くるら戸田」は合併時に策定した新市建設計画の主要事業として整備され、平成26年10月には道路利用者の休憩、情報提供、地域連携の場となる「道の駅」に登録されました。施設の外観は日本の近代造船発祥の地である戸田にちなんで洋式帆船「ヘタ号」をモチーフとし、1階には日帰り温泉、戸田の観光情報や歴史・文化を紹介する展示室、海産物など特産品を揃えた物販コーナーが設置されたほか、戸田市民窓口事務所や高齢者交流ルームが設けられ、2階には戸田地区センター、3階には防災倉庫等が備えられました。

「くるら戸田」は戸田地域の雇用の確保に繋がる施設となるほか、地元住民の活動拠点として、また交流を深める場として活用していくと共に、自然環境や歴史、観光等の戸田の魅力を全国に発信する絶好の地域振興施設として、地域活性化のシンボリック役割を果たしていきます。



10月28日に行われたセレモニー

戸田地域の皆さんにインタビュー ～合併して思うことや「くるら戸田」についてお聞きしました～



細谷もも姫さん(左)・山村萌さん
今まで見たことのない大きくてきれいな施設「くるら戸田」にびっくりしました。足湯はとても気持ち良く、ソフトクリームは甘くておいしいです。今度はたくさんの友だちと一緒に温泉を楽しみたいです。



山本文明さん・澄子さんご夫婦
合併したことで素晴らしい施設ができました。「くるら戸田」の温泉や高齢者交流ルームを地域のみならず利用するのが楽しみです。観光客とも交流を深め、戸田の良さを伝えていきたいです。



踊りの会「咲かす紅」の皆さんとそのお友だち
若い人たちが戸田から去り寂しい思いもありますが、村から市となって安全・安心面等で心強さを感じています。日々の生活を落ち着いて暮らせるようになりました。合併して良かったと思っています。



「くるら戸田」売店担当の勝呂康江さん(左)・望月沙紀さん
従業員の募集を見て「ぜひ働きたい」と思いました。戸田の活性化に携わることができて嬉しいです。これまで接客等の研修を重ねてきました。皆さんが気軽に立ち寄り、寛げるよう心を込めておもてなしします。

今後引き続き、地域に住んでいる皆さんが安全・安心で生涯いきいきと暮らしていけるよう、生活基盤を整備していくと共に、戸田の魅力を活かした地域の活性化を図ることに、更なる沼津と戸田の2つの個性を融合させたまちづくりを目指して

いきます。そのためには地域の皆さんのより一層の主体的な活動が欠かせません。戸田地域に新たな発想と工夫が生まれ、活性化に繋げていける魅力あるまちづくりを進めていきたいと思います。

合併から これまでの取り組み

合併直前の平成16年度に行った「沼津市・戸田村の新しいまちづくりに関する住民アンケート調査」で、戸田地域で力を入れるべき施策として当時の戸田村の皆さんは、道路整備や雇用の確保、自然環境を利活用した観光や医療・福祉の充実を求めています。このような声を反映させるため、市では今まで様々な施策に取り組みと共に、これまで沼津市が培ってきた商業や文化、高次都市機能の集積力と戸田村が持つ自然環境や歴史、観光等の魅力を有機的に結びつけていくためのまちづくりを進めてきました。



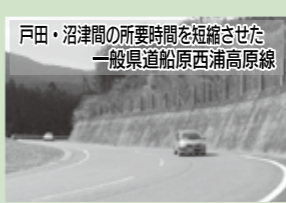
戸田地域の一次産品を沼津で加工したり、販売したりする等、産業分野で融合的な取り組みを行っています

戸田地域で取り組んできた施策

地域の皆さんの生活基盤を整備してきたほか、沼津市街へのアクセスの向上等に努めてきました。その一部をご紹介します。

道路整備

- 一般県道船原西浦高原線改良整備
- 林道舟山線改良整備



戸田・沼津間の所要時間を短縮させた一般県道船原西浦高原線

戸田に自生するみかんの原種「夕手バナ」を使ったジャムなど

生活環境

- デマンド式乗合タクシーを開始
- 井田・舟山地区に防災資機材を整備



医療・福祉

- 高規格救急車の導入
- 「くるら戸田」に高齢者の憩いのスペースを整備



高齢者の憩いの場「高齢者交流ルーム」